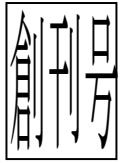


# 居場所塾新聞



発行所 京都市東山区三軒家  
〒605-0833 京都市東山区三軒家  
075-451-8566

# 講開塾所場のま



居場所塾の風景

つながるKYOTOプロジェクトと立命館大学地域社会研究会は、1月9日に第1回「まちの居場所」塾を開講した。小辻寿規代表が挨拶及び報告「まちの居場所の未来を考える」を冒頭で行った。それに続き、「京都市のまちの居場所政策について」を京都市役所長寿福祉課の松尾晃一氏が、「まちの居場所としての京都笑科大学」を京都外国語大学教授の

福井直秀氏が行った。松尾氏は、「第5期京都市民長寿すこやかプラン（平成24年度～26年度）」を用いて、京都市の高齢者がおかれている社会環境の説明をした上で、高齢者の居場所づくりの説明を行った。京都市が助成する居場所は、約9割が町内会や自治会を中心とした地域団体だという。行政区としては、北区が一番多く13件、上京区は5件、左京区3件となっており、地域的には偏りがあるものの、全部で本年は60件程度あり、4年後には300件程度の助成を目指すという。福井氏は、自身が代表を務める京都笑科大学の歴史及び、京都笑科大学が現在、どのような居場所機能を持っているかについて説明を行った。

## まちの居場所の定義

松尾氏によれば、京都市の定義する居場所とは、「高齢者が自由に集い、そこでの交流を通じて、地域から孤立することなく高齢者どうし、また、高齢者と若者や子ども達との交流を図ることができるよう設置されたもので、営利や政治的、宗教的活動を目的としないものを言う」という。2012年度より京都市の居場所支援事業は、この定義で行われている。

つながるKYOTOプロジェクトでは、現在、会員を募集しています。居場所づくりやまちづくりに関わる活動を行いたいと考えている方はご連絡ください。@gmail.com

第2回は1月28日に元佛教大学教授「まちの学び舎ハルハウス」代表丹羽國子氏と立命館大学先端総合学術研究科教授後藤玲子氏をゲストに招き

## 第2回 開催決定

立命館大学衣笠キャンパス創思館406教室にて開催する。まちの学び舎ハルハウスの丹羽國子氏が「まちの居場所運営のコツ」を、立命館大学先端総合学術

## いぎいぎ 笑科大学

京都外大福井教授



福井氏によれば、京都笑科大学は、日本笑い学会京都支部が立ち上げた笑いを学ぶ居場所であり、年6回程度の講座と、講座の無い月に行われる勉強会が主な内容となっているという。

受講生たちは、笑いを学ぶ傍らで、友達作りも行っているとのこと、勉強だけでなく、京都笑科大学は仲間づくりの場となっているという。

京都笑科大学の講座は、大学教授、医師、落語家、サラリーマン、タレントなど多彩な講師を招いて行っているという、2013年2月に京都外国語大学で行われる講座においては、医師でラジオパーソナリティも務める「総合人間研究所」所長の早川一光氏を迎えて行う。

## 参加者の情報交換



## 参加者 情報交換 にごやか

開る、もしくは通っている居場所の情報が提供されると同時に、居場所のツアーに行きたいという声や、自身のまちづくり活動に関する相談なども行われた。京都市未来まちづくり100人委員会の新しいメンバーの参加者も数名おり、今後、つながるKYOTOプロジェクトをはじめとする関係プロジェクトチームとの連携も検討しているとのことである。

研究科教授後藤玲子氏が「まちの居場所シンポジウムの趣旨」について講演する。また、前回好評であった参加者による「まちの居場所」に関する意見交換も引き続き開催する。

## 居場所流

助成を受けている居場所が60件程度であるというが、松尾氏の話によれば、その9割程度は、自治会・町内会などを中心とした団体だという。今まで、地域のサロン活動を行ってきた方々が居場所として、申請されたのが中心であろう。孤立を防ぐという目的もあることであるが、地域から孤立した人は、地域住民が主体になるこのように「居場所」を利用しやすいのであろうか。本当に孤立した人が、今の「居場所」政策に馴染むのか、我々もその成果をしばし見守りたい。(代表 小辻寿規)